

インフォメーション

医療と介護。そして、その未来へ。

スタッフ
募集

医療法人 清水会

- 鶴見緑地病院
- ミズノ胃腸科・内科・整形
- 介護老人保健施設 おひさま園
- 森小路清水会クリニック
- トム・ソーヤ 訪問看護ステーション
- 鶴見緑地病院橋波リハビリセンター

社会福祉法人 清水福祉会

- 特別養護老人ホーム / 養護老人ホーム さくら苑
- さくら苑 デイサービスセンター太子橋
- ケアハウス鶴見緑地
- 特別養護老人ホーム 城東こすもす苑
- 特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑
- サービス付き高齢者向け住宅 さくら
- 介護付き有料老人ホーム 鶴見緑地
- 小規模多機能ホーム さくら



清水会グループ 統括本部 採用係

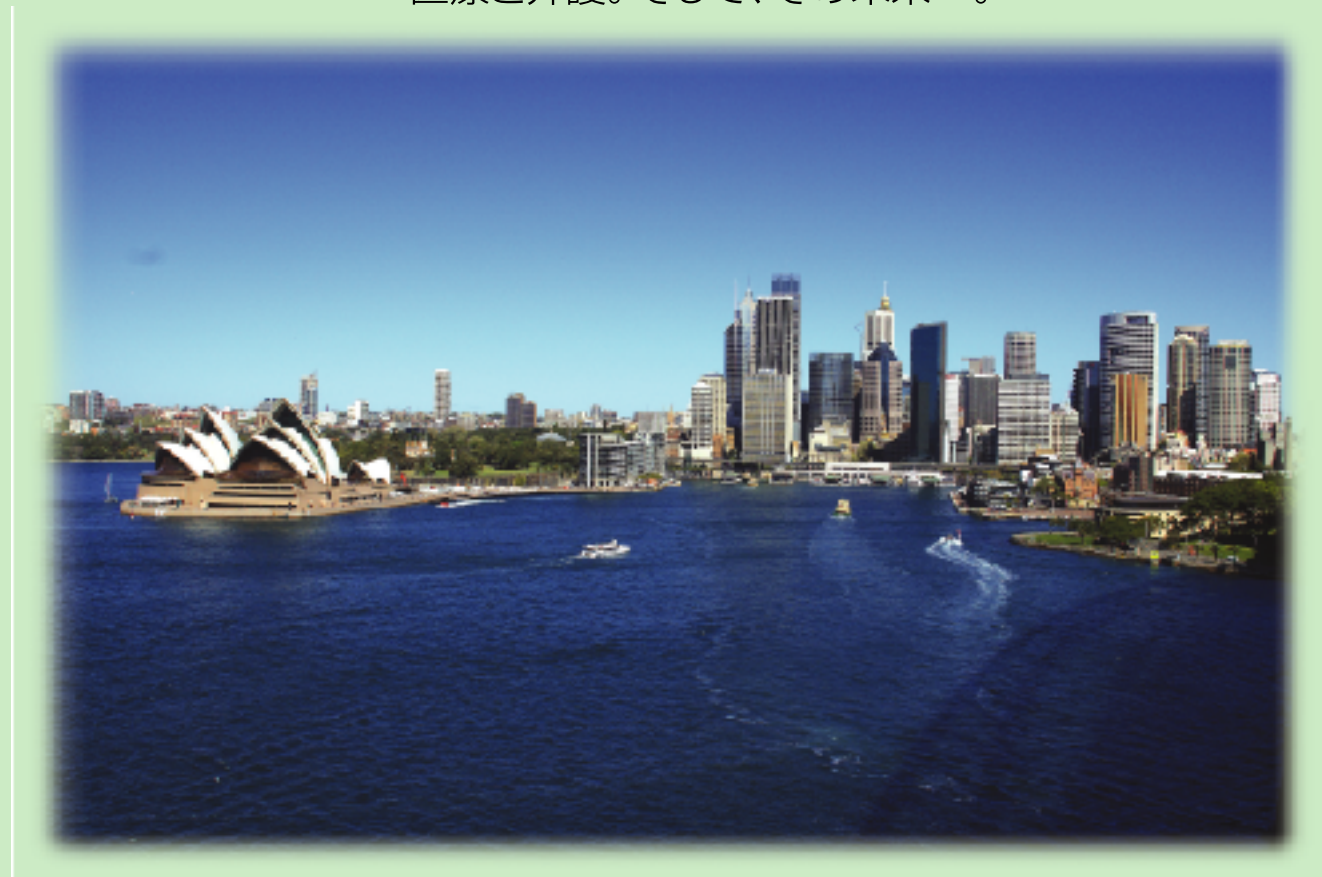
〒535-0022 大阪市旭区新森3丁目1-12 ☎06-6952-5188
ホームページ <http://www.seisuiikai.net/> ホームページに求人詳細を掲載しています

編集後記

- ▽今回の特集は、「在宅強化型老健 おひさま園」。各職種が一体となって運営し取り組んでいる様子を紹介させていただきました。
- ▽「城東こすもす苑」はショートステイを9床(全個室)用意しております。介護者さまの負担軽減など様々な理由でご利用することが可能です。
- ▽「特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑」が福祉サービス第三者評価を受審しました。より一層のサービスの質の向上に努めます。
- ▽レシピ紹介コーナーでは、動脈硬化予防に効果がある野菜のアスパラガスを使ったレシピを紹介しています。



医療と介護。そして、その未来へ。



Seisui

Contents

- 02・03 在宅強化型老健施設(おひさま園)
- 04 平成29年度清水会グループ合同入職式／新入職ドクター紹介
- 05 福祉サービス第三者評価を受審(鶴見緑地苑)／腰補助用マッスルスーツの導入(橋波リハビリセンター、有料老人ホーム鶴見緑地)
- 06 クローズアップ(城東こすもす苑ショートステイ)／第13回合同事例研究発表会
- 07 福祉車両(日本財団)を計10台整備(鶴見緑地苑)／レシピ紹介

表紙写真/『世界の風景』シリーズ
オーストラリア シドニー
撮影:山内康雄Dr.(鶴見緑地病院)

2017.05 Vol.19

在宅強化型老健施設（おひさま園）

Seisui

各職種代表より、取り組みの状況を語る。

厚生労働省は、平成24年4月の介護報酬の改定で、将来の介護老人施設(老健)のあるべき姿を提示し、従来型老健と強化型老健の二つに分類しました。
従来型老健から強化型老健に移行するためには厳しい要件を満たす必要がありますが、おひさま園はその要件をクリアし2015年から強化型老健として運営されています。
ここでは、各職種の代表に取り組みの状況を話していただきました。



宮崎昌子看護部長【看護】
MIYAZAKI MASAKO



橋村一也課長代理【相談員】
HASHIMURA KAZUYA



石元晴美【施設ケアマネ】
ISHIMOTO HARUMI



服部哲弥副主任【リハビリ】
HATTORI TETSUYA



山本裕美介護主任【介護】
YAMAMOTO HIROMI



安上 彩【管理栄養士】
YASUGAMI AYA

——まず、強化型老健が創設された背景からお聞かせください。

宮崎 入所する要介護者さまに対して、適切なリハビリテーションを行い、しっかりと自宅にお帰りいただく。その役割を明確にしたのが強化型老健です。これは老健本来の目的でもあります。これまでの従来型老健には、本来の目的を担うことが難しい施設もありました。
そこで、厚労省は平成24年にリハビリテーション機能の強化や疾病の治療に対する評価を見直したということです。

橋村 従来型から強化型に移行するために、厚労省は3項目の要件を設定しました。
具体的には、直近6か月の在宅復帰率が50%以上、ベッド回転率10%以上、直近3か月の要介護4・5の入所者の割合35%以上という厳しいものです。ですから、5年経った現在、移行できているのは10%強ではないでしょうか。
おひさま園はこうした要件を満たして2015年から強化型老健として運営しています。

——強化型老健としてのおひさま園で働く各種の皆さんの仕事内容について教えてください。

橋村 支援相談員は老健独自の職種で、相談窓口

理念

- 1.私達は 医療、介護、福祉を通じ地域に貢献する。
- 2.私達は 多くの方々に愛される施設をめざす。
- 3.私達は 調和のとれた、豊かな人間性の育成につとめ、誇りと責任を持ち、日々研鑽を重ねる。

的な機能を担っています。

入所者さまの受け入れ、日常的な相談、ご家族からの相談に乗り、その人らしく地域で暮らしていくために必要な社会的サポートや、ご家族と施設、ご家族と入所者さまといった関係をコーディネートします。

石元 ケアマネは、入所に際して入所者さまやご家族の意向を確認し、暫定ケアプランをご提示し内容説明をします。
入所後には、施設ケアプランの作成、生活面での課題の確認を行います。また退所後には訪問指導等を行っています。

宮崎 看護師は、医師と協力して、入所者さまの医学的管理を行うとともに、医学的知識を生かして適切なケアの在り方を検討します。
在宅復帰という目的に向けての体調管理をするのはもちろん、皆さんご高齢で、合併症を持っておられる方もいますので、疾病等を悪化させないための体調管理も心掛けています。

服部 入所者さまに対する評価とリハビリ計画の作成、専門的リハビリのご提供、生活機能向上プログラムの指導がリハビリ担当者の仕事です。施設内とご家庭では環境が違います。ですから、あくまでご自宅での日常生活を見据えたリハビリに力を入れています。

山本 施設内での入所者さまの身の回りの介助をするのが私たち介護職の仕事です。
障害や病気、筋力の低下などで、ご自分ではできない部分を援助することが主な内容ですが、入所者さまが、その人らしい生活が送れるようにすることを心掛けて日々手助けを行っています。

安上 管理栄養士は、入所者さまの栄養状態の維持・向上のために、食事に関するすべてのことをコーディネートしています。その際、いつも心に留めているのは、施設で提供しているような食事をご家庭で作るのは難しい面です。ですから、退所までに、ご自宅でも普通の食事ができるように形態をスキルアップすることを目標にしています。

——強化型老健の所期の目的を果たすためには各職種間の連携が必要とされていますね。

石元 その通りです。要介護高齢者の介護課題、地域・在宅医療への取り組み、医療費削減といった課題が生じる中で、異なった専門的背景を持つ専門職が共有した目標に向けて共に働くこと、すなわち多職種連携は必要不可欠なことです。

橋村 地域包括ケアを推進していくためには、高齢者の健康・生活を支えるための医療と介護の連携を欠かすことはできません。
医療・介護の現場では、ケアマネを中心に、その他の職種が一丸となって多職種連携を行っていくことが求められています。

山本 具体例として、フロア内で行われている訓練を、看護や介護の担当者が見ることで、タイムリーにリハビリ担当者に相談したりアドバイスを受けることができます。それが介護技術の向上にもつながっています。

宮崎 ケアマネ、支援相談員、看護・介護担当者、リハビリスタッフ、管理栄養士など、多職種でのチームケアを行い、ご家族とも密接な連携を図ることによって、入所者さまが安心して在宅復帰できる体制が取れています。

橋村 看護や介護、リハビリ職員が申し送り事項と一緒に聞くことによって、問題を共有し、対策が円滑にできるようになっています。
また、お互いを理解し、信頼を深める機会にもなっています。ご家族が、ある職員に聞いたら知っている、ある職員は知らないといった事があれば不安を与えてしまいますが連携が取れておれば防げます。

石元 定期的に各職種、入所者さま、ご家族を交えてカンファレンスが行われています。そこでは入所者さまご本人の状態の変化や新しい課題や問題点がないか、適切にサービスが提供できているかといったことを検討しています。

服部 在宅復帰会議も行っています。こうした文字通り一丸となつての介護によって強化型老健・おひさま園の運営が円滑に行われています。

——各職種の皆さんが一体となって運営されていることがよくわかりました。最後に今後の決意をお願いします。

宮崎 強化型老健の目的を、職員がしっかり自覚して、それぞれの職務を全うしていきたいと思えます。

橋村 おひさま園に来てよかったと言って帰っていただける施設として、これからもさらに連携を密にしてご提供できるサービスの向上に取り組んでいきます。

石元 ご家族との信頼関係も大事にしたい。地域に根差した施設として、職員一人一人のスキルアップにも力を入れていかなければならないと思っています。

平成29年度清水会グループ合同入職式

60人の新入職員が晴れやかな船出

施設正面玄関の桜が咲き始めた4月1日、さくら苑の地域交流スペースで、平成29年度清水会グループ合同の入職式が行われました。入職式には、黒のスーツ姿の新入職員60名が緊張の面持ちで出席、社会人として晴れの船出をしました。

冒頭、社会福祉法人清水福祉会の水野智志理事長が挨拶し、お祝いと励ましの言葉を贈りました。その中で「皆さん、本日は入職式大変おめでとうございます。法人としまして、皆さんをお迎えできましたことを大変うれしく思います。本日から、当法人の職員として活躍されるわけですが、最初に申し上げたいことは、皆さん一人一人が「施設の顔」としての自覚と誇りを持って行動していただきたいことです。皆さんは法人にとって、かけがえのない人材であり、同時にこの職場が皆さんの力を発揮する場所でもあります。皆さんの新しい力で各職場を盛り上げてください。」と述べました。



続いて新入職員に理事長から辞令が交付されました。新入職者の自己紹介では「愛される職員を目指します」「利用者さまの笑顔を引き出せる職員になります」といった抱負が表明されました。各施設の幹部職員の紹介と、激励の言葉があって入職式は滞りなく終了しました。

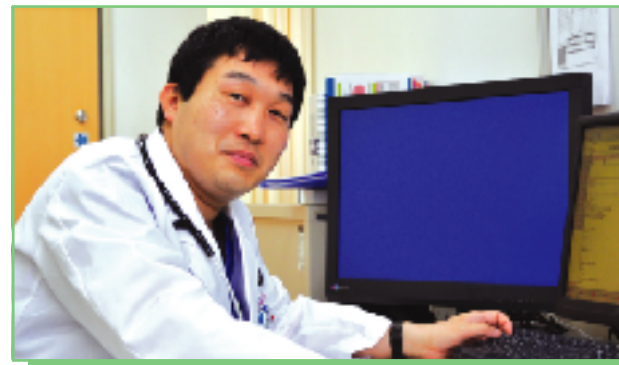
一方、新入職員に対する研修が、1日入職式終了後及び3日、4日、5日にわたって行われ、法人の理念や社会人としての心構え、介護における人権と尊厳、高齢者の特性、感染予防の基本、緊急時対応といった、看護や介護、医療に携わるものとしての基本的な知識を各講師から学びました。



新入職 ドクター紹介

私は、当初医学とは別の道を歩んでおりました。しかし親類が病気になったこと、またより多くの社会貢献をしたいと思い医師を志しました。卒業後は、色々な人と切磋琢磨して自分を高めたいと思い沖縄で研修を行い、昨年関西へ戻ってきました。日々感謝の気持ちを忘れず、話しやすい相談しやすい雰囲気と笑顔を大切に、またそれぞれの患者さんの気持ちに寄り添うドクターであるよう努めております。まだまだ至らぬ点が多くご迷惑をかけますが、気になることがありましたら気軽に相談してください。よろしくお願いします。

鶴見緑地病院 山中 英樹 医師
YAMANAKA HIDEKI



2014年に関西医科大学を卒業後、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで研修。2016年関西医科大学第一内科に入局後、関西医科大学附属病院関西医科大学総合医療センターで勤務。2017年4月より鶴見緑地病院で診療。趣味は、自転車や電車による旅や史跡温泉巡り。

福祉サービス第三者評価を受審

特別養護老人ホーム鶴見緑地苑

福祉サービス第三者評価とは福祉サービスを提供する事業者のサービスの質について、公正・中立な第三者機関が専門的・客観的な立場から評価を行う仕組みです。

平成27年11月から平成28年2月にかけて、社会福祉法人清水福祉会 特別養護老人ホーム鶴見緑地苑が福祉サービス第三者評価を初めて受審しました。

これまでに社会福祉法人清水福祉会では、特別養護老人ホームさくら苑、養護老人ホームさくら苑、ケアハウス鶴見緑地、城東こすもす苑が福祉サービス第三者評価の受審を受けています。

特別養護老人ホーム鶴見緑地苑は、平成23年11月に開設をして、現在6年目に入りました。これからも福祉サービスの第三者評価を受ける事で、自施設のサービス内容を見直し、福祉サービスの質の向上に努めていきたいと思っています。



腰補助用 マッスルスーツの導入

鶴見緑地病院橋波リハビリセンター、有料老人ホーム鶴見緑地では、介護ロボット等導入支援事業特例交付金を利用して、腰補助用マッスルスーツを2台ずつ導入いたしました。

鶴見緑地病院橋波リハビリセンター、有料老人ホーム鶴見緑地では、介護ロボット等導入支援事業特例交付金を利用して、腰補助用マッスルスーツを2台ずつ導入いたしました。

マッスルスーツとは、着用により人の動きをサポートする筋力補助装置の事です。移乗作業において、ベッドからの起き上がり、車いすへの乗り移り等の時に、腰にかかる負担を軽減します。

介護職員の腰痛については、介護業界全体の問題になっています。今回、導入をしたマッスルスーツにより、少しでも職員の腰痛が軽減できればと考えています。



また、入居者さま、利用者さまに対しても、マッスルスーツを着用する事で、身体が小さく力のない職員でも安心して介助を任せてもらえるような安心感に繋がればと考えています。



クローズアップ close up!

城東こすもす苑 **予約制**
短期入所生活介護(ショートステイ)
全室個室で、ベッド・トイレ・洗面台・エアコン・テレビが完備

特別養護老人ホーム城東こすもす苑では、9床のショートステイを設けています。介護負担の軽減、介護者の冠婚葬祭や体調不良、施設に慣れるための練習など様々な理由で利用していただくことが可能です。ショートステイの期間は、1泊2日から週単位の利用まで状況に合わせて利用していただくことができます。利用までの流れは、申込み↓施設職員による面談↓判定会議↓利用可能かの連絡↓利用開始となります。ショートステイの利用は予約制で、予約は2ヶ月前から受け付けておりますが、部屋が空いていれば、いつでも利用する事が可能です。全室個室で、居室内にはベッド・トイレ・洗面台・エアコン・テレビが完備されています。個室でするので、他の利用者に気兼ねせず、ご自身の家のようにマイペースにのんびり過ごしていただくことができます。もちろん施設内はバリアフリー、入浴設備も一般浴から寝たきりの方でも入れる機械浴まで揃っていますので、自立に近い方から重い障害をもっている方まで受け入れ可能です。ショートステイ利用時は、自宅まで施設の車で送迎させていただきます。



(お問い合わせ先) 生活相談員 西浦 克哉
 ☎06-6933-2002 NISHIURA KATSUYA

いただきます。ショートステイを検討している、または悩まれている方は城東こすもす苑までお問い合わせください。

福祉車両(日本財団)を計10台整備
 社会福祉法人清水福祉会では、鶴見緑地苑デイサービスにおいても、福祉車両が整備され、地域の皆さまのニーズにお応えしています。



昨年6月に、日本財団が行っている福祉車両助成金の申請を行い、社会福祉法人清水福祉会 鶴見緑地苑デイサービスが2016年度助成金の交付が決定しました。社会福祉法人清水福祉会では、今回の分を含めて合計10台が日本財団からの助成を受けて、福祉車両を整備しています。それぞれの車両が地域の皆さまのニーズに応えられるように、様々な形で各施設において有効に活用されています。今回、福祉車両の助成を受ける鶴見緑地苑デイサービスにおいても、福祉車両を整備する事で、地域の皆さまの在宅生活を支えられるように、有効活用させていただきます。

第13回合同事例研究発表会

清水会グループ(医療法人清水会・社会福祉法人清水福祉会)



平成29年2月18日(土)に、清水会グループ(医療法人清水会・社会福祉法人清水福祉会)の第13回合同事例研究発表会が特別養護老人ホームさくら苑にて開催されました。今年度は、各施設より、合計9題の演題の発表がありました。それぞれの施設が1年かけて取り組んできた内容についての発表があり、自施設でも取り入れる事ができないかと、真剣な眼差しで聞き入っていました。また、演題終了後の質疑応答についても活発な意見交換が行われ、予定した時間を延長する等、有意義な時間となりました。今後も清水会グループでは、各施設それぞれが入居者さま、利用者さまを第一に考えた取り組みを行い、良い取り組みについて共有する事でグループ全体の質の向上に努めていきたいと考えています。

レシピ紹介コーナー 栄養課



鶴見緑地病院
 管理栄養士 松原 恵美
 MATSUBARA MEGUMI

アスパラつくね
 5月~6月に旬のグリーンアスパラガスは、カロテン、ビタミンC・E・B群が多い緑黄色野菜です。疲労回復やスタミナ増強効果のあるアミノ酸の一種、アスパラギン酸が多く含まれています。穂先に含まれるルチンは、毛細血管を丈夫にする働きがあり、動脈硬化の予防に効果があるといわれています。つくねに入ったアスパラの食感をお楽しみください。

recipe

【材料】(2人分)
 白ねぎ.....10g
 グリーンアスパラガス.....3本
 鶏ひき肉(もも肉).....200g
 塩.....小さじ1/4
 (調味料)
 酒・醤油.....各小さじ1
 おろし生姜・片栗粉.....各小さじ1/2
 卵.....1/2個
 塩・サラダ油.....適量
 酒.....大さじ1
 (タレ調味料)
 醤油・片栗粉.....各小さじ1/2
 みりん・砂糖.....各小さじ1

【作り方】
 (1)白ねぎはみじん切り。アスパラは根本を1㎝切り、下1/3の硬い皮をむく。
 (2)月鍋に入る長さに切り、塩を加えた熱湯で根元・穂先の順に硬めに茹で、ザルにあける。粗熱をとり、1㎝の斜め切りにする。
 (3)火鶏ひき肉に塩を加え、粘りが出るまで良くこねる。調味料を加えさらにこね、溶き卵・白ねぎ・アスパラを加え4等分する。
 (4)フライパンにサラダ油を熱し、形を整えながらつくねを入れる。
 (5)木や強めの火で焼き色を両面につけ、酒を加えて蓋をし、中火で加熱する。
 (6)金火が通ったつくねを皿に盛る。フライパンの中をペーパーで拭き、タレ調味料を入れ、とろみがつくまで加熱する。つくねにタレをかける。